

第3回加西市未来の学校構想検討委員会

日時 : 令和 4年 2月7日(月)
14時00分~16時24分

場所 : 加西市市民会館3F 小ホール

1. 開会
2. 協議事項 学園構想の推進に向けて

会長

前回から引き続き素案について協議をしていく。今回は小学校を中心に進めたい。

(事務局資料説明)

会長

STEAM 教育とともに小規模校の課題を解消していくための学園構想ということで、事務局からの説明があった。まずはこの学園構想について意見を頂戴したい。

A 委員

「小規模校について教職員が課題と考えること」について質問する。「多様な価値に触れる機会が少ない」とか、「人間関係の固定化」とか、「変化のチャンスがない」ということが5つほど載っている。本当にそういう事例、事実があるのか、それともそういうイメージなのか。

2018年の岩手県の教育委員会では、学習定着度状況調査で全県平均と比較した結果、2年連続で複式学級の児童の方が、学力が高かったという報告がある。また、文科省の全国学力調査で、2009年で少し古いですが、生徒60人の小規模中学校で、国語、数学共に正答率が全国平均を上回っていた。小さな小学校の生徒の方が、学力が高かったという文部科学省の事例が出ている。加西市で一番小さな学校と一番大きい学校の2つを実際に比べて、学力やコミュニケーションスキルの有無とか、人間関係の固定化で悩んでいる子どもが多いとか、そういうことは調べた結果なのか。それとも、イメージだけで言われているのか。

B 委員

形や目に見えるものとして表れてくるもの、例えば学力とか、体力的な機能とかは、丁寧に指導を受けた方が高いのは当然だ。ただ、この「人間関係の固定化」というのは、中学校に上がってきたときには明らかに見えている。統計的なものではないが、同じ小学校6年生から上がった中学1年生では、力関係がはっきりしていて、あの子がこう言うのであれば、そのまま流れてしまう子が非常に多いのは事実だ。

中学校2年生、3年生になると、精神的な成長に伴い、逆転することもあるが、中学校1年生ぐらいでは、この見えないところの部分、私たちは非認知能力と言っているが、その部分では明らかに存在する。統計に表れていることではないが、それはあると踏んでいる。

C 委員

小学校の子どもたちの様子、日々子ども同士の触れ合いを見ていると、明らかに「視野が狭い」、「人と人とのつながり方が上手ではない」といった様子が多々見られる。小学校は特に人格の形成が大事で、学力のレベルより、まず人として世の中で生きていく、その力をつける一番の大事なポイントだと思う。これから複式学級になっていくと、人と人との交流が少ない中で、「本当にこの子どもどうなるんだろう」という不安が前に立つ。小規模校の児童については、大人との触れ合いしかない中で、子どもの心がどれだけ育っていくのか、すごく心配な部分だ。

A 委員

B 委員からは、中1では多少問題を見いだせるが、中2、中3になると解消できているとの話だった。加西市にも非常に小さな学校と大きな学校があるが、それについては具体的な統計とか研究がないということがよくわかった。どちらかといえばイメージで語られているところが大きい。

会長

子どもを日々見ている先生方の認識である。統計を取ったものではないが、プロの先生方が見て、そう認識しているという意見である。

D 委員

資料の中に「単学級ではクラスになじめない子の居場所がなくなる」という話があった。私も160名ぐらいの小規模校の校長をしていた。人数が少ないからこそ、今言われたことが指導できるのでは思う。「クラスになじめない子がいる」と先生が感じとるのは、見つけられているということで、「それじゃ、その子の居場所がなくならないように指導すればいいのでは」と私は単純に思う。小学校の子ども「視野が狭い」とか「人と人とのつながり方が下手だ」ということも、「いや、だから、たくさんいればいいのか」という疑問もある。今、5人に1人がハイリー・センシティブ・チャイルドと言って、すごく敏感で集団になじまない、一斉授業になじまない、そういう子どもたちが20%はいると言われている。どちらかというとなん少人数の方が学力はもちろん、その子の心の状態も安定するであろうという論文の方が多い。

A 委員の言うような事例や調査がないのであれば、イメージなのではと。先生方の観察力はすごく大事だと思うが、このような学校の在り方を議論するときに、教育委員会は何かデータを持っていないのか、それとも今後考えているのか、その回答を聞きたい。

B 委員

イメージだけで把握しているのではない。生徒の指導案や、生活アンケートなどから、あるいは大きな学校から小さな学校に行ったときに、小学校の先生が感じられたことをそのまま書いている。統計ではないが、アンケート事例は、自分らの頭の中にたたき込んであり、漠然としたイメージを答えているわけではない。

D 委員

大規模校から小規模校に変わったときに「何かうまくいかない」と先生が感じたり、子どもの特質が見えてくることは、この報告からもわかる。私が言いたいのは「小規模校だからこうなる」、「じゃ、その手だてを打てばいいのではないか」ということだ。小規模校は小規模校のいいところがある。全国学力・学習状況調査を6年生で行うが、小野市では圧倒的に小規模校の方がいい。問題行動の数とかも。中学校へ行ったときの子どもたちの活躍を考えると、小規模校は小規模校のよさがある。「この課題があるから、その課題を解決するためにこれをしよう」というのはよくわかるが、何か「小規模校が駄目だ」というところに違和感がある。「だったらこうしたらいい」という話をしていただきたい。

事務局（教育総務課）

小規模校が駄目だとか、大規模校がいいとかという話ではない。小規模校にもいいところはある。大規模校にはないメリットもあり、デメリットもある。もし、小規模校にデメリットがあれば、そこを学校構想で何とか工夫してやっていきたいという話である。

調査には定量調査と定性調査がある。定量調査で統計的な数字を取るとなかなか具体的な例が出てこないの、定性調査ではあるが、先生から聞き取りという形で、具体的な話を聞いてまとめている。もちろん小規模のいいところは、どんどん伸ばすべきである。そこは今回、問うてはいない。小規模校について、それぞれの先生がデメリットだと感じているところがあれば、それを解消しようというのが学園構想だと理解いただきたい。

D 委員

たくさん人間がいるだけで、もうしんどくなって学校に行けなくなる子どもたちが5分の1は確実にいると言われている。発達に特性のある子どもたちがプラスされれば、私たちが今まで「競争して力をつけて厳しい社会で生きていくのがいい」と当たり前のように思っている昭和のテンプレートが、そもそも合わなくなっている。HSC（ハイリー・センシティブ・チャイルド）と言われる子どもは、学校に行って人を見るだけですごくしんどくなる。30人のクラスにいるというの、やはりしんどいという子どもたちが増えてきていることも視野に入れて考えていただきたい。

E 委員

小規模校の課題ということで、例えば加西市の小規模学校の生徒が大きな中学校へ行って、何か問題になるようなことがあるのか。また、北条のような人数の多いところで、揉まれてくる生徒にはどのような利点があるのか教えてほしい。

C 委員

私は小さな小学校、大きな小学校にも勤め、いずれも見てきた。今、10人少しの人数の学級の子どもたちが、小学校6年生から急に中学校へ変わって行くときに「すごく不安だ」と言う。4小学校から中学校に集まってくるので「不安だ」と言っている。素案の中学校の統廃合案は8校が集まる。4校でも不安なのに、さらに大きい人数の子が集まるともっと不安という

ことになる。「慣れたこの子だからこんなふうにしてあげよう」という小さな規模の小学校の良さが、中学校に行ったら、逆にそれがデメリットになって、徐々にしんどくなる。反対に大きな学校の子は、D委員の言うようにうまく適応できずにしんどいという子もいる。

後々、大きな社会へ出て、対応していく強さを育てていくためには、やはりある程度、集団が大きい方が子どもたちの成長につながっていくのではないか。

E委員

具体的に「小規模校から中学校に行って困った」とか、「大きな学校の場合は良かった」とか、そういうことはあるのか。

B委員

この資料に挙げてあるのは、小規模校が悪いとか駄目とか言っているわけではない。小さい学校だから、丁寧に上がってきて、心も優しいし、勉強もよくできるのは当然と思う。大きな学校なら、集団が大きくなれば大きくなるほど、個々にもいろんな違いが出てくるので、全国学力調査でも大きい学校ほど平均は下がる。生徒指導の数も大きな学校の方が多い。分母が違うので、パーセンテージによってそうなる。E委員が言うような小規模校とか大きな学校の区別は全くないが、この資料に書いてある先生方が捉えられた課題というものを持つ子は多い。初めの頃はおどおどしているが、先生らにも支えられ、成長していく子が非常に多いと捉えている。個別の小学校がどうのこうのとか、そんなことは全くない。

E委員

先生方の努力もあって、中学校で生徒が成長していることがよくわかった。また、先生方の懇談の資料を見ていると統廃合という意見が大勢のような気がした。今日、学校経験者の方と「中学校を統合したら先生が余って困るで。校長先生も3人のところが1人になる。余った場合は、若い先生は市外に出されてしまって、残った先生は高年齢が多い。だから、加西の教育は劣ってしまう」という話を聞いたが、心配ないか。

事務局（学校教育課）

教員の配置、採用を10年以上先まで見通すことはできないが、5、6年先までは定年退職者数を見積もっている。例えば令和8年に中学校統廃合ということであれば、その際に校長、教頭、一般教職員で何名の退職があり、それにあわせて採用計画を立てていく。中学校が一つになれば、校長、教頭、養護教諭、事務職員は確実に1人になることを想定して採用計画が立てられる。

E委員

現状では先生は余らないということなのか。

事務局（学校教育課）

近隣で統廃合を行っている市町がある。県教委も激減加配と言って、すごく減ってしまう学

校に関しては、余分に加配教員、余分に先生をつける措置をしてくれる場合もある。「余る」ということがないように計画する。

F 委員

私は宇仁の出身なので、保育園から数えたら8年間ずっと単独のクラスだった。中学校に行ったときは、他の学校はクラス替えの経験がある中、私自身初めてだった。少し戸惑いもあったが、1週間か1か月するともう、みんな友達という感じでなじんでいった。ギャップ自体は本当に僅かな時間だった。小学校のときはずっと1クラスだったが、今でも思い返してみれば、中学のときよりも小学校の単クラスの方が楽しかったと強く心を感じている。それで、学園構想の話だが、大体何年後ぐらいからの予定となるのか。

会長

前回、中学校については令和8年とあったが、小学校についての見通しがあれば、説明いただきたい。

事務局（教育総務課）

学園構想は、小小連携の発展形という形で考えている。できるところはすぐにでもスタートする。時間割を合わせていくとか、いろいろ時間をかけてやることもあるので、今すぐできること、何年か先にできること、あるいは中学校が統合するときができること、それぞれにスケジュールを組んで、最終的には5年先に一つの形になるようめざしたい。

F 委員

資料に「学校間を常時ネットワーク接続し、授業のみならず日常の子どものコミュニケーションにも活用する」とあるが、私の子どもはよつばこども園に行っている。4校が1つになって、また、小学校へ行ったらバラバラになる。友達同士になったのに、バラバラになると中学まで出会わない子もいると思うので、休み時間にオンラインで会話ができるように、早く進めてほしい。

事務局（教育総務課）

泉の4つの小学校のクラスが1つにつながるよう、早くそういう設備環境を整えたい。

事務局（学校教育課）

泉中学校区の4小学校では、自然学校を5年生が一緒に行くようになった。宇仁小学校と日吉小学校の3、4年生も一緒に合同授業をしている。今年度にC委員が中心になって4小学校の1年生がICTを使い交流している。リアルな対面の授業とオンライン授業が徐々に始まっている。

会長

学園構想に関しては、来年からでも出来るところからやっていく。

C 委員

泉中校区はいろんな場面で小中連携のつながりを持っている。なぜ、1年生から今やっているかという、昨年に泉よつばこども園が開園して、一緒になった子供たちがその翌年、小学校に入学してバラバラになってしまった。バラバラで6年間過ごして、中学校でまた一緒になる。その形はあまり良くない。同じ場で学ぶことが理想だが、それができない今は何らかの形でつながることを考えた。ただし、準備にはかなりの時間が必要である。それでも教員たちは子どもに向き合う時間を確保しながら取り組んでいる。「子どもたちのために何ができるか」を考えて、教員は自分の時間を惜しみながら時間を作り出している。中には休日を割いて準備している。そんな努力があって、交流が成り立っていることを知っていただきたい。

B 委員

これからの未来の教育を実践していく者として発言する。私らは一番に「教育の質」というものを考えている。この職員の意見交換会の記録は、学園構想を実現するための工夫や解決に向けての手立てが示してあるだけである。もちろん、これも大事だが、イベントとしての形は成り立っても、教育の質としては、効果が期待できないこともたくさんあると思う。

具体的に言うと、「校務分掌の一本化」や「生徒指導担当が4校を兼ねる」とかが書いてある。これは形として課題はクリアできるが、生徒指導の質としては格段に落ちる。

それから、「学園ごとに行事は一つです」だが、私たちが一番大切にしているのは発表当日ではない。それまでの練習の過程を大事にしている。毎日、北条小学校に3小学校が集まって練習することは不可能に近い。数回集まる程度では、みんなですっと集まって練習するよりも教育的な質は落ちる。練習課程で培う協調性とか同調意識、それらが友情を生み、行事で一つのものを作り上げていく達成感、満足感、これが加西市の教育委員会が推奨する3Cの人材育成だと思う。その3Cの人材育成を挙げて、STEAM教育を前面に押し出していくのであれば、私たちは教育の質というところに着目して、少しでもそれを高めていきたい。

小規模校の良さは十分承知している。小規模校の方がいいというのは、中学校でも数学や英語が少人数学習であるのは、それを証明しており、悪いということはない。

しかし、これからの未来の子どもたちは、コンピューターの記録とか成績には勝てない。今も言ったように学力とか記録とかいうもの以外で勝負していかなければならない。人間の持っている人間らしさとか、人間臭さというものを揉んで、時には友達同士のいさかいものすごく大事なことだと思っている。そういう経験をどんどんさせた上でやらせたいというのが、私たちの意見だ。はっきり言えば、小中の教職員並びに管理職全部含めた9割以上は、これからの未来の教育は統合でやっていきたいと考えているのが事実だ。

学園構想と少人数のデメリットをカバーするために工夫を講じたとしても、統合するその教育的効果の方がはるかに高い。今なぜ、こんなことを言うのかということ、私たち代表校長も年度を挟んで代わる。9月に答申が出るが、どのような答申であっても、現時点の中学校や小学

校、教育現場の意見は「統合である」ということを議事録に残してもらいたい。

そうしないと、我々、あのときの先人たちとなるが、「10年前の代表校長らは何をしていたのか」と言われかねないと私は捉えている。統合と統合しないというのは、それぐらいの差があると私たちは認識していることを知っていただきたい。

C 委員

小学校、特別支援学校の校長会でもこの話題を出している。9割以上はやはり子どもの将来を考えると統廃合をするべきだという考えだ。現場で教職員とも様々な機会にこの話題になるが、子どもの顔を思い浮かべると、「今のままではやっぱり難しいだろうな」という意見が多い。

現場としては小学校も、小小連携の学園構想というより、実際に統廃合して、よりきちんとした枠組みの中で、学びをするという方が大事だと考えている。

会長

2人の委員から現場の職員の意見を代表して挙げていただいた。様々なところで意見を頂き、アンケートも取り、どのようにするのか、また落としどころを決めていかないといけないと思う。

G 委員

小規模校に教員が課題だと考えていることに対し、イメージだとかいろいろな意見が出ているが、これは本当に学校の先生の率直な意見だと思う。本当に課題だと私も保護者として感じている。人が少ない分、コミュニケーションが減る。子どもたちも、私自身の子どもも単学級で仲良く6年間過ごしたが、それでも刺激が少ない、新たな人たちの出会いが少ないことによって集団行動で得られるものが少なくなる。

クラスの中でも力関係が生まれてくるので、2クラスぐらいあれば子どもたちの力関係を振り分け、先生方にサポートしてもらえる環境ができる。指導によって解決できることもあるだろうが、保護者としてはできる限り子どもたちが、たくさんの子どもらと触れ合いながら生活することが必要だと思う。一番疑問に感じるのは、この学園構想でICTを使ってどんな授業をするのか教えてほしい。

事務局（学校教育課）

一つのモデルとしては、教室の壁面に隣の学校の様子が映るようなコマーシャルがある。あのような形ができないものかと検討している。ただ、教室の確保、準備や片付けの時間、仮想コミュニケーションの授業の方法などの課題もある。学校には大型モニターがあり、対面式で隣の学校の子たちと2校間で交流できるようになっている。

G 委員

私も最近は仕事でモニター越しになってしまうと、全然、言葉とか雰囲気かわからない。先生がりモートで、子どもたちを指導するにも、肌で感じとるものは伝わりにくい。なぜ、学校構想ではなく統廃合をしないのか。学校の先生の意見を見ると、どうも先生の負担ばかり増え

る。時間や調整、準備も大変。この学校構想は、失礼な言い方かもしれないが、地域の人たちにいい顔をするために「学校残しますよ」という感じにしか見えない。統合という形で地域の人に示して、前向きに検討した方がいい。

A 委員

地域社会の共同体の要であり、今もあり続けている小学校は、明治から 150 年の歴史がある。F 委員が今も一番懐かしい時代というように心のふるさとだと思う。そういった共同体の要である小学校をコミュニケーションやソーシャルスキルが育ちにくいかもしれないという理由でなくしてしまうのは一段も二段も飛躍し過ぎの議論ではないか。なぜ、なくさないといけないのか。150 年ずっと地域の要であり、これからも地域の人学ぶところだ。学校には図書室も音楽室も美術室もあり、芸術や文化の要である。それをなくしてしまうことが本当にいいのか。その地域はどうなるのかを考える必要が大いにある。

地域を愛するということが素案に出ている。郷土を愛するということが小学校と中学校をなくしてしまうことが、どこでどう一緒になるのか私は理解できない。今まで土着的なもの、ローカルなものがずっと軽んじられていた歴史がある。その結果、人が人生を送る場所であった郷土、ふるさとに張っていた素朴な人間の生活の根が切断され、バラバラになって、居場所を失ってしまっているということは大きな問題である。私はもっとローカルに自分の住んでいる地元で根を張って生きるということの生きがいとか意味を見出せる学校教育が必要だと思う。

心の中のふるさとは、大都会にしようとする地方に住んでいようと一緒である。誰もが心の中にふるさとは必要であり、それは小さな学校の方がつくりやすい。せっかくあるものを何で壊してしまうのか。私はそれがすごく疑問だ。この素案に対してそう思う。

会長

素案は小学校を基本残して、その足りないところをこの学園構想で補うとしている。小学校の地域を大事にしたいというのが素案の基本的な考え方だ。G 委員と A 委員とは対局な意見だったが、それについてはどうだろうか。

G 委員

保護者として、地域を守り学校を残しながら、子育てしていくことは素晴らしいことだと思うが、実際に、PTA 活動としては、美バースデーの例でも、地域に子どもがいない町もあって、回収が困難になっている。子どもが少なくなり、地区委員、学級委員の負担が増えて、何度も同じ方が地域に参加していることもあり、子どもの数を増やすことで解消できないものかと思う。統合が全ていいとは言わないが、地域の方からも保護者への助けが必要だ。

会長

教育現場の意見として、教育の質という面から考えたときに、学校構想では十分ではないという意見が出た。小規模の良さも考えながら、足りないところをどれだけ補うことができるの

か、今後引き続き議論いただきたい。今日の後半はアンケートを予定しているが、学校構想についてまだ意見を頂いてない委員からも一言いただきたい。

D 委員

私は子どもたちのことを考えたとき、どういう子どもが頭に浮かぶかということ、どうしても支援の要る子、援助が要る子に思いがいく。中学校が合併され、小学校はそのまま残すというラインであるが、一つの提案として議事録に残していただきたいことがある。兵庫県は公立のフリースクールで、神出学園を持っている。すごく効果があって全国的にも注目を浴びる活動をしている。ただ、各市町の教育委員会が持つ公立のフリースクールはない。

学校の在り方を検討し、新たな形を模索するのであれば、公立のフリースクールを一つ視野に入れて、加西市は取り組んではどうだろうか。この提案を議事録に残していただきたい。

会長

フリースクールとは小学校の話ということだろうか。

D 委員

子どもたちには選択肢が欲しい。今の学校制度の中では、この地域に生まれたら、公立小学校はここという形で住所地の学校にしか行けない。小規模校でちょっと自分が合わないとか、不適應だとか、しんどいとか、集団に向かない子どもたちには選択肢がない。不登校という選択しかないわけだが、そこを何とか複線化したい。加西市には適應教室というものもあるが、それではなく、フリースクールという形で子どもたちが選択して、その伸び伸び生きて力を得て社会に出られるようなルートがあればいいと思う。

会長

1 校か。

D 委員

1 校あれば選択できる。

H 委員

小規模校の課題については、先ほどから B 委員、C 委員から話を聞いて、ある程度私もそう感じている。課題と考えることを学園構想化して解決しようということであり、また、小規模校にもたくさん良いことがあるので、それはもっともっと伸ばそうという話だと思う。この資料の中に小規模校の良いところが触れられていないので、わかっている人にはわかる話かもしれないが、一般的にはちょっとわかりにくいので、その点も一緒に掲載すればよかったと思う。

会長

次回に個別に改めて整理したいと思う。

E 委員

私も郷土愛というのは非常に大事だと思う。子どもがランドセルを背負って歩く姿を親や地域の人が見守るということは非常に大切なこと。統合になったら、地域としてはもう遠い存在になって、学校を応援しようという気持ちが薄れてくる。老人クラブは10小学校区から出席いただいている。校区によって温度差はあるが、地域と地域が重なって加西市があると思う。小学校区は残しておくべきという声を上げておきたい。

I 委員

小学校、中学校それぞれの在り方について、定量的なデータ、個々に出てくる根拠と併せて考える必要があると私自身も改めて感じた。情報が偏らないように、あるいは補い合いながら判断していく必要がある。自治体としては義務教育の9年間に責任を持つことになるので、子どもたちの環境を9年間通して考えていくことも大事だ。もちろん小学校、中学校、それぞれの議論もあるが、分担し過ぎるのはもったいない。ここは小学校で補える。ここは中学校で補えるという考え方も視野に入れていいと思う。それが1点目。

もう1点は、先生方から「統合を強く表明しておきたい」という意見があった。本来、学校は教職員だけのものではなく、設置者は自治体であり、財政を支えているのは住民であり、広くは国民である。先生方が先生方のみで子どもたちを育まなければならないとか、そういうふうに今までの環境がそう思わせてきたところがあるのだろう。

「地域に学校があったほうがいいよね」ということだけで、日頃は子どもたちとの関わりがないままの状態であれば、先生方としては非常に孤独で、しんどく感じるだろう。「閉じられていた学校では限界がある」という言葉が今回の資料にあった。これからの学校の在り方を考えていく上では考慮すべきところだ。荷を先生方に背負わせ過ぎている部分があるのであればそこを改善するというか、いかに一緒につくっていくかが重要だ。

J 委員

以前にも学校の在り方を考える検討委員会に入っており、事務局とともに品川区の巨大な学校を見学に行った。その学校が、小さいながらも加西市に出来ればすばらしいだろうなと思って期待していたが、結局、その話はなくなってしまった。夢を実現することはとても大事なことで。地域の住民の方たちの願いは、地域が存続することであろう。では、保護者は何を考えるか。子どもたちが大きく育ったときに、自分の力でやっていくだけの力を備えることができる大人に育つかどうか、環境に耐えられるか、経済的にはどうか、そういうことを心配している。そんな親の思いを叶えてくれるような学校があれば一番いい。

PTA の意見も読んだ。本当にいろいろなことを考えられている。私もB委員、C委員、先生方の意見と同じ思いだ。子どもに力をつけていく本当の重要なところ、心の育成が大事である。教職員の考える課題は、令和8年までにみんなで話し合い、力をつけていき、環境を整えて、やらなければならないことがたくさんある。先生方も学習し、学ばなくてはならない。地域の協力も必要だ。いい形にみんなが満足して夢がかなう学校ができればと思う。

泉よつばこども園ができて、小学校でまたバラバラになって、そして中学校で、という話を

今日聞いて驚いた。

K 委員

令和2年度の出生者は190名という状況だった。3年前までは250人前後で、その前は300人程度で5年以上続いた。そんな状況を今後に当てはめると、去年の190名が11小学校に単純に分かれれば、その学年は19人を下回る。今年の新児も去年を下回るペースで推移しており、新型コロナの影響もあるが、加西市の子どもの減少傾向に歯止めが止まらない。西村市政で人口減少を抑える施策を加えているが、その効果は出ていない。各委員には今の学校の現状だけではなく、現在の学校規模すら数年後には維持できない状況になることも含めて、小中学校の教育環境がどうあるべきかを検討いただきたいと思う。

L 委員

平成22年のときに統廃合問題が出たときに、連合PTA会長として統廃合されるような学校をずっと回った。そのときの教員、保護者は「統廃合は反対」という意見がほとんどであった。そのときの小規模校では「もう何年も一クラス、単学級で私らはやってきたのに、今さらくつつかなくても、十分子どもは育つ」という話だった。わざわざ引っ越してきた母親からも、「せっかく小っちゃいところに来たのに、また、大きいところへ戻されるのはやめてほしい」という話も聞いた。時代が変わると考えも変わり、教員、保護者の声も違うというのがよくわかった。これが感想。

あと、事務局への注文。事務局の言う学園構想がわかりにくいと感じた。前回の素案には、15頁のシートが1枚目だけ。今回の資料も一番最後のところだけが「学園構想の説明」になっていて、学園構想になったらどんなふうになるのか、わかりにくい。事務局の「小小連携の発展型」という回答や、会長から具体的な事例の説明、G委員の質問に対する具体例で、やっと出てきたという感じだった。「学園構想になるとこんな学校になるんや」というのがわからないと、アンケートを答える側もわからないのではないかな。

今日の資料で問題になっている先生方の意見も、小規模校の課題の部分だけが出ていたので、学園構想よりも統廃合の議論が中心になってしまった。先生方や学校の選出委員は統合の立場であることはよくわかったが、H委員、I委員の指摘のとおり、両論を併記で書いておけば、小規模校のいいところを残しながら、課題となっているものは学園構想でカバーしていくという話につなげられたと思うので、もうちょっとだけ資料を上手に作っていただきたい。できれば学園構想の理想形というか、どういうものが学園構想なのかがわかるように、具体例を挙げて説明できるようにしていただくとありがたい。

会長

次回の課題とさせていただきます。

M 委員

私は大阪の小学校に通っていて、全学年で700人から800人の大規模校にいた。大規模校のいいところはクラス遊びとか体育とか音楽とか、例えばドッジボールも人数が多ければ多い

ほど、大人数だからこそできる楽しさがあった。その逆に、授業だったらわからないところを「わからない」と言えない。授業がだんだんと進んでいってしまっ、『わからない』って言った、みんな止まってしまって何か申し訳ない」という子も多かったと思う。なので、小学校から塾に行ったりする子も多かった。大規模の良いところと小規模の良いところをくっつけて、これから合併するにも合併しないにしても、何か方法があればいいと思う。

会長

各委員ありがとうございます。本日配られた資料で、前回の中学校区に関わる補足資料があり、その説明をお願いします。

(事務局資料説明)

会長

何度も小中統合ができないということを考え、少しいびつになるが、前回示した素案の中学校区がベターという説明である。

事務局（教育総務課）

形はいびつになるが、これはバスで通学を前提にしている。

A 委員

4つの案のうち、素案の2中学校区の方が数的には一番みたいな感じだが、この北条中学校を残してあと3中が合併という案に私は反対だ。このクロワッサンみたいな三日月型の変な形で、こんな校区をつくっておかしいと思わない方がおかしい。北から南まで20キロ以上ある。全然地域性も違う。この8小学校が一緒になった変な地図を見ておかしいと思わない感性を私は疑う。言い過ぎかもしれないが、この話を聞いてみたら、「それはないやろう」という意見が多かった。素案の2中学校区だと北条中だけが残って、3中は子どもたちが距離のハンデを背負う。どうしても合併しないといけないなら、私としては3中学校。善防と加西、それから泉は残して、北条。それを思ったが、南北に中学校区も割れるんじゃないかなと、今の話を聞いて思った。

会長

距離についてはどうだろうか。南北をもしバスということになれば。

事務局（総合教育センター）

通学時間ということで説明する。北条中で現段階、一番遠い生徒が自転車で20分程度、それから善防中では30分程度、加西中では40分、泉中でも40分程度が今の現状。

素案では、統合の学校の位置を北条高校からインターの間ぐらいの辺り、間をとって愛菜館周辺に仮定すると、車で一番遠い地区までは15分程度になる。バスの本数とかコースとか、停車しながら進むので、それにプラスアルファして時間がかかる。現状で自転車通学の一番長いところの40分が一つの目安と考えるので、それ以下になるようなバスの走らせ方が必要と

考える。そうすると、登校下校の不審者の対応、交通の危ない箇所、危険箇所はたくさんある。冬の夕方は真っ暗で、学校としても心配している。それらはバスになることで解消する。

ただし、比較的近い生徒はバスに乗ると逆に時間がかかるので、この場合は、例えば自転車通学と選択制にするとか、そういうことで通学時間は解消できると考えている。

会長

素案以外に2つの案を検討した結果、素案が一応ベターとして事務局は考えている。まだ検討しないといけないこともあるが、その辺りはまた引き続き検討したい。

3. 加西市未来の学校構想（素案）に関するアンケート調査について

会長

先ほどから議論に出ているアンケート調査について事務局から説明をお願いします。

（事務局資料説明）

I 委員

アンケートは、せっかくいただいた声もそれをどう受け取って解釈、分析できるか、とても取扱いが難しい。取ることはできるが、それをどう生かすかって考えたときに、私にはやや不安がある。というのは今日の議論もその一端だが、10年後の学校とか地域の姿について、ある程度の議論とか、双方向のやりとりがない中で、このようなアンケートを取ると、それぞれの思い描いているものが、別々のままで集計となる。もちろん全員の思いや考えが一つになることはないが、これをどう生かせるのかっていう点で、このタイミングで、このアンケートを取るということに不安を感じる。毎回同じことで恐縮だが、これからのSTEAM教育を含めて加西の目指す姿ってものの共有とか、議論が十分なのかなと。その前にもアンケートという形になると、これでいいのかなってというのは少し不安に思うところだ。

会長

もうちょっと時間を置いてからのほうがいいということだろうか。それとも、もしこのタイミングで取るのであれば、事前説明会等を充実させていく必要があるということか。

I 委員

2つあると思う。その事前説明ってというのは、団体とか相手先にもよるが、それで十分だろうかということが一つ。急にアンケートをやるよりずっといいと思うが、一度の説明なりで十分なものなのか。例えば、この場でも、これからめざす教育の在り方が統廃合の話になってしまいう部分もある。その辺りがちょっと不安なのが1点。

それから、これからの教育の在り方とアンケートとの関係が、ちょっとアンケート項目からも読み取りづらい。私の解釈不足かもしれないが、その点も不安に思える。事務局の考えにも

よるが、コミュニケーションが十分かなということと、これから目指す教育とアンケート項目との関係が、私にはうまく理解できていない。

事務局（教育総務課）

アンケートは難しいのは痛感している。ただ、事前説明というのは、アンケートのやり方の説明ではなく、少なくとも素案に対しての意見を問うことなので、素案についての説明は行う。学園構想、2校案、この考え方にどのように至ったのか説明をした上で、アンケートを取る予定である。素案に対して率直な意見を聞くところが、ウエイトとしては大きいと思っている。事前説明でどれだけ説明ができるのか難しいが、こちらで事前説明を用意して、なおかつ保護者や地域の方、学校側で、説明の時間を必要だということであれば、説明の時間をしっかり取った上で、アンケートを取りたいと思っている。

会長

丁寧に余裕を持って場を設定していただく必要があるかと思う。第2回で出された素案と今日出された資料からもう少し「小」の良さも書き加えた形の資料とか改めて作る必要があるのではと。説明会用の資料を簡潔でわかりやすく、重要なところが理解できるように作っていただく必要があると思った。スケジュール的にはどんな感じだろうか。この時期に取ったほうがいいのかということだろうか。

事務局（教育総務課）

前回からも全体スケジュールの話があった。開催頻度を増やすことは構わない。ただ、会議の期間が1年で、その範囲の中で答申をまとめていきたいと考えている。この素案がそのまま答申になるということは考えておらず、これはあくまでもたたき台。では、これがどこでどう変わって、答申に流れていくのかというところは、やはりアンケートが大きな役割を担っていると思っている。答申をまとめていくにはアンケートの結果を重視していきたい。そのアンケートの結果が後ろに遅れると、取りまとめが難しくなる。当初の予定も非常にタイトだが、それでもこの4月にアンケートというところは譲れないと考える。

事務局（教育長）

アンケートは早過ぎるという感触は持っている。各校区に対して私たちがやろうとしているSTEAM教育1つとっても、学園構想1つとっても、我々は毎日やっているのだからわかっているが、保護者にはなかなか伝わっていないだろうというのが実感だ。本当は1日でも遅くしたい。ところが、期限の関係でどうしてもそこで取っておかないと、集計が難しくなるという現場の、そこは「現場の都合やろう」と私も思うが、しかし、そうは言ってもまとめていかないといけないので、何かよい方法がないものか検討してみたい。

会長

今回の委員会でこの案を了承すれば、この予定で走れるが、今日了承を得なければ、どういう形で原案を委員会で諮るのか、その辺りの工夫は必要だ。

事務局（教育総務課）

今回の4月18日にアンケートを再度協議するとなれば、5月連休明けになってしまう。ただ、「このままどうぞ」というわけにもいかないことはわかっている。再度、事務局に一任いただき、文書で確認をいただければどうか。

会長

次回までの間に文章でのやりとりをして、このアンケート調査の内容や実施の仕方について了承を得るということか。具体的にどう改良できるかは事務局で検討いただき、委員の方々、それでよいだろうか。改めてまた文書で回させていただく。

G委員

問4と問5について、今まで話し合ったものと方向性が違っているものを質問すると、「この内容で進んでいくんや」と勘違いされるのではと思うが。

会長

回答は賛成も再検討も両方ある。素案について意見を聞くのであれば、特に問題はないとは思っている。素案をしっかりと理解してもらえるかどうかは、すごく不安なところではある。

E委員

市長から諮問された委員会であり、アンケートで多くの方の意見を聞くということは非常に大事だ。その結果が数字で出てくる。それを多数で決めていくのか。それとも参考にしながら議論をして一定の方向を出すのか。「これだ」という形で市長に諮問をするのか。あやふやなところでいくのか。最終的には住民投票にかけるのか。来年の市長選挙で判断してもらおうのか。どのような過程になっていくのかなと思うが。

会長

基本、最終的にはこの委員会での取りまとめるものを答申で出すことになる。それに当たって広く意見を聞くということ。ただ、数字で出るものなので、その扱いは慎重に。多いか少ないかという単純に数では決められないと思う。最終的にはこの委員会の合議で決めればと思うが、事務局はどう考えるか。

事務局（教育総務課）

数字で採配するものではない。アンケートで頂いた意見を参考に、ここでの意見をまとめていただくことを考えている。最終は答申が出て、また、市長がそれをもって判断するという形になる。委員で決めていただくことが、この会議の目標になるので、よろしく願いしたい。

会長

では、このアンケートの中身と取り方についてもう少し検討いただき、時間はあまりないが、

今のスケジュールに近いところを出していく。我々がまとめていくときにもう時間がないと困ると思う。事務局で準備をよろしく願います。

I 委員

会議後のやりとりで構わないので、特に問3、問6を含めて質問設定の理由を伺いたいと思う。そうすれば、コメントもしやすい。

事務局（教育総務課）

メール等でやりとりして、また、各委員にもその内容を共有させていただきたい。

会長

年度が明けて今日で最後になる委員の方、校長先生方もそのように聞いた。貴重なご意見を頂きありがとうございました。

A 委員

会議の回数がこれで間に合うのかという話が前回も出ていた。今日がもう第3回、最初の予定では7回で終わりと。そのうちの1回は現地視察だと、全然時間が足りない。今日も2つの議題があったが、全く時間が足りないような状態だ。こんな大事なことなので、最初の予定より会議の回数は増やしていただき、時間がある中で皆さんの意見を集約するのがいい。再度提案させていただきたい。

会長

この点は事務局で対応いただきたい。

4. その他

5. 閉会

教育部長

本日の会議の素案に対しての前回の検討委員会以降、教職員、連合 PTA との意見交換会での内容を報告させていただき、アンケートや小学校の学園構想について話し合っていた。少しだけ紹介したい。前回の検討委員会以降、教職員、それから連合 PTA の会、いろいろなご意見を伺う機会に私も参加した。教職員は、本当に目の前の子どもたち、そして、その子どもたちが 10 年後、20 年後どう育っていくのかということ、それから、未来、これから先を担う子どもたちのことを考えながら、本当に真剣に話をしてくれた。

また、連合 PTA の会長たちも自分の子どものこと、それから、小学校中学校を経験した兄弟が、これから小学校、中学校に入っていく子どものことも考えながら、1周、2周とぐるぐる回りながら意見をたくさん出していただいた。今回の資料で紹介しているが、この言葉以上にいろんな思いがあって、なかなか紹介できなかったことが残念だと思っている。各委員は、それぞれの立場で話をしてもらうので全然構わないが、こんな意見があったということをもっ

ともっと上手に伝えられたら、もっと議論がね、活発になったのではというようにも思っている。

アンケートの結果についても丁寧に報告させてもらいながら、そのことを通して焦点を絞ってまた話合っただければと思う。次回は年度をまたぎ、4月 18 日 月曜日午後2時から、本日と同じ会場で、よろしく願います。また、今日も多くの傍聴の方々、重ねて今後もお付き合いをお願いしたい。これをもって、第3回加西市未来の学校構想検討委員会を閉会させていただきます。本日は本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。